

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あさがお)

事業所番号	0671200236		
法人名	東北医療福祉会		
事業所名	グルーブホーム、フラワーさがえ		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江小和田41-5		
自己評価作成日	平成 25 年 7 月 1日	開設年月日	平成 16年 6月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の行事を取り入れている。笹巻きやぼた餅などを一緒に作り昔を思い出しながら食べる機会を設けている。又畑で収穫した里芋や葱を使って家族や地域の皆さんを招待し芋煮会を開催している。日中は活動的に過ごして頂ける様にドライブ・買物・散歩・外食等に出掛ける機会を多く持つ様に支援している。ご利用者様の笑顔をとくさん引き出せるような支援を心掛けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オールインワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 25年 8月 23日	評価結果決定日	平成25年 9月 9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本理念である「人間としての尊厳や権利を守り、最後までその人らしいあり方をめざします」「地域と・共にある・こと、地域の一人として暮らすことをめざします」を実践活動に活かすために、モニタリングに基づく計画作成を職員全体で行い、また地域行事への参加など地域と共に生きる事業所運営に努力している。今年度から法人主催の事例検討会への参加や自己評価表による職員自身の自己点検を行うなど職員研修の充実やケアの質の向上に向けた取り組みがなされている。地域行事への参加および事業所の広報紙の回覧など、地域との繋がりを重視し、また利用者1人ひとりの希望に沿って外出支援などを積極的に行うなど、利用者本位のケアの実践に努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時の研修にてホームの理念等についての学習をすると共に、毎週月曜日の朝礼時に読み上げ確認している。また、玄関前、日誌のファイルなど、目の留まる場所に掲示して、スタッフ全員が役割を考えながら質の向上に努めている。	理念は玄関や目の留まる場所への掲示や朝礼等における読み上げなどを行い、職員間での共通理解を深めている。管理者はその実践状況を会議等で確認している。その理念の実践に向けて、全職員による「チームアセスメント表」等を基に利用者1人ひとりへの対応を会議で話しあい、「その人らしいあり方」のケアに努めている。職員それぞれも個別ケアを大切に利用者の希望や、出来る事出来ない事を注視し「その人らしいあり方」を把握している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、様々な行事などにも参加している。また市内全般の催し物等へも積極的に出掛けて地元の方との交流を持てるように努めている。	町内会に加入し回覧板等を通して地区の情報を得ると同時に、定期的にホームたよりを発行し地区への情報発信に努めている。またお祭りなどの地区行事への参加や日常の散歩などを通じて地区・近隣の方と交流を深め、さらに傾聴ボランティアや紙芝居ボランティアなど多様な交流活動にも努めている。また、「心肺蘇生講習会」を地区の公民館で開催し、地区民の参加も呼び掛け、地域の一員としての役割も果たしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の広報紙や運営委員会にて日常生活の様子や支援方法を伝えている。又、ホームの芋煮会に地域の方より参加して頂き認知症の理解を深めて頂けるように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開き構成員からの意見や要望など取り入れながら事業所の活動に活かしている。	会議メンバーには、町内会長・民生委員・市職員・家族会代表・ボランティアから構成されており、年6回開催している。昨年の目標達成計画に従い事業所の取組みを理解していただくために、今年度は活動状況の写真を会議資料として提示したり、会議を芋煮会行事に合わせて行うことなども計画しており、運営会議の持ち方に工夫している。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が開催する連絡会へ参加するなどして事業所の活動を理解してもらえるように取り組んでいる。	市職員が運営推進会議委員として参加しており、日常的に疑問点などは電話で相談している。また、今年度の大雨災害による断水時には市から給水支援があるなど、連絡・相談しやすい状況である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人の方針として新大綱skは禁止となっており、スタッフも理解している。本人の状態を把握しながら気持ちを添える配慮と対応で取り組んでいる。	「身体拘束0宣言」ポスターを事業所内に掲示し、またユニット会議において「身体拘束しないケア」について確認を行い、スタッフへの周知を図っている。利用者が外に出る行動などの場合は、無理に引き留めず一緒に出掛けながら落ち着くまで対応するなど、利用者の行動を分析して対応し安全確保に努めている。また、利用者の状況を申し送り・ユニット会議などで伝達しながら、チームで関わられるよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自治体や関係機関で開催される研修会に参加し知識を得ている。また、研修会に参加できなかったスタッフに対して資料の提供や全体会議で振り返りの学習を行い知識の共有をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会へのスタッフの派遣を行っていくと共に研修会後の報告会、資料配布などを行い全スタッフが学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間をとって説明している。また、重度化や看取りについての対応やホームでの生活を送る上で、起こりうる事柄などについても説明している。退居時には家族の不安もある事から、十分に話し合いを行い、関係機関との連携図りながら対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり常に話し易い雰囲気作りをしている。家族会や来所時に意見等がある時には早急に対応して返事をする様努めている。	家族会や芋煮会などの行事に家族が参加した時などは対話に努め、意見を聞くなどして運営に反映するよう努めている。また、日頃の家族の面会時には、お茶を出すなど話しやすい雰囲気づくりに心掛け、家族との話し合いを大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議を行いその中で意見を聞きながら運営、活動に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や日々の会話の中で職員の希望などの聞き取りを行っている。又、研修資料を常に目の届く所に置き、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を奨励して各自が向上心を持って働ける環境整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修会に参加出来るように機会を設け交替で参加し全体会議などで報告している。また参加時の資料の回覧を行いスタッフ全員で質の向上が図れるようにしている。	市・県主催の研修会や法人主催の研修会へ参加し、内容について全体会やユニット会議等での振り返りや復命書回覧で情報の共有化を行っている。今年度から、「人事考課表」による自己評価や「管理者評価」を行い、職員の力量評価や質の向上に向けて工夫している。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホーム連絡協議会等の交換研修に参加したり他の、研修会にも積極的に参加しサービスの向上に努めている。	県内グループホーム連絡協議会の交換研修に職員が参加することで、新しい情報を取り入れてケアの質の向上や職員の意識向上を図っている。	

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に本人の意見や思いを聞くと共に家族からの意見なども参考にしながら受け止める努力をしている。また入居後には本人との信頼関係を築けるように日々の関わりの中で本人の意見や思いを聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、今までの家族の思いや体験などを聞き又、今後も継続して行ける様に家族からもレクリエーション等に参加して頂き、その際に要望を聞きながら関係作りに努めている。月に一度郵送する一ヶ月の様子の中に担当者としての気づきを記入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が何に困り、何を必要としているのかを見極め希望に添ったケアが出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまで培ってきた一人ひとりの経験、知識を活かし利用者の希望や思いを出来るだけ実現出来る様に支援している。一方的なケアに成らないよう出来る事、出来ない事を把握しながら生活の場で活用出来る様支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後、任せきりの状態にならない様に家族と連絡を密にし、共に連携、支援して行く様努めている。敬老会や芋煮会等の行事の参加を呼びかけ一緒に活動する機会を持ち、共に協力し合いながら、利用者を支えている関係を築いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や隣人との関係が途切れないように家族との連携を取りながら面会や外出の協力をお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気軽に話し合える雰囲気作りをしている。又、お互いに助け合いながら関わりを持っていける様に見守り、支援している。トラブル等についてはスタッフが間に入り穏やかになる様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルケア後に亡くなった方のお墓参りに行った際に、御家族と思いで話をするなどして、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく暮らし続ける支援に向けて思いや希望を聞き把握するよう努めている、又、訴えが困難な方に対しては、日々の関わりの中やミーティング等で本人の立場に立って意見を出し検討している。	普段のケアを通して何気ない会話や表情、仕草から利用者本人の思いや意向をくみ取ることに留意している。また居室担当者を配属して個別的な関わりを持つとともに、職員全体で話し合い、本人の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用申請時に生活歴等を記入して頂き参考にしていく。又、事前面接時に本人の家族から様々な情報を頂き、一人一人の生活履歴の把握に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人ひとりの過ごし方を総合的に把握している。個人記録、看護通院記録、連絡帳を活用し一人一人の出来ること、出来ないこと、やりたい事、好きなことや生活のリズムを把握することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、スタッフ全員で意見を出し合い、カンファレンスを行い、本人がより良い生活が出来るようにプランを作成している。変化が生じた時は、その都度話し合いを持ちながらプランの変更を含め対応している。	6か月ごと、または状況の変化時にモニタリングを行いプランの見直しを行っている。『できること・出来ないこと表』『チームアセスメント表』を使用しながら、利用者一人ひとりについて職員全員で総合的に判断し、また必要に応じて家族を交えたカンファレンスも行き、自立に向けたプラン作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	随時、個人記録を取り情報共有の為に連絡帳を使用している。又、利用者ごとにフェイスシートを使用し日々のケアやプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と共に地域の店に買い物に行くなど地域の資源を活かせるケアを行い又、利用者夕食のメニューを一緒に考えながら買い物するなど残存機能を発揮出来る様な支援を行っている。その他、地域のボランティアにも来所して頂き、安全で、楽しく暮らしていける環境作りに取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要な医療支援が出来るように、本人、家族の希望する医療機関の受診を行っている。定期的な受診や往診により医師との連携を図っている、急変、体調不良の際には常に対応出来るような体制作りが出来ている。	入所前からのかかりつけ医への受診の他、状況に応じて往診体制も整備している。受診記録については看護師が「受診記録」を整備、記入し、職員間で回覧して情報を共有し、病状把握に努めている。また、急変時の対応マニュアルを作成し、見やすいところに掲示し、だれでも、いつでも対応できるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を一名配置し、常に介護員と連携を取りながら利用者の健康管理に努めて居る。又受診の際の医師との連携、家族への連絡を行い個々の利用者合った受診や看護が受けられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は家族、医療機関と連携を取り、情報交換や相談等の対応に努め早期に退院出来るように努めている。随時、面会に行き病院関係者との関係作りも行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時における対応に係る指針と看取りに係る指針を作成し、家族に説明し同意を得ている。体調の変化や入院時には、段階に応じて家族、医療機関と話し合っており、今後の方針を決めるようにしている。	重度化した場合の指針及び看取りの指針を整備し、契約時に家族への説明を行っている。体調や病状の変化に応じて家族との話し合いを行い、合意形成を図りながらケアの方針を決定している。これまでも、医師・家族の協力を得て看取りの経験もあり、貴重な体験となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム独自の緊急マニュアルを作成し、入職時の研修で学ぶと共にユニット会議で確認する機会を設けている。又、緊急救命の講習会なども実施して実践力も身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画書を作成すると共に、定期的に消防署立会いの基、避難訓練を行っている。又、地区の町内会長や民生委員にも参加して頂き、地域住民にもチラシを配布し訓練時の参加協力を募っている。	消防計画書を作成し、年2回の火災訓練を行っている。本年5月には、消防署職員の立会いで夜間を想定した訓練や2階から移動する訓練等を行った他、通報訓練も行っている。訓練に対して地域の協力を得るために、チラシを地区回覧し、地区民の参加を呼び掛けている。居室入口の名札のところに本人の身体状態等に応じた移動支援のため「独歩」「車椅子」「シート」などと移動区分を分類して明示し、本人の移動方法が誰にでもわかるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念を念頭に入れ週一回読み合わせを行い、スタッフ全員が共通の認識で尊厳と権利を守ると共にプライバシーに配慮出来る様対応への工夫や改善も常に行っている。	人格尊重を重視する事業所の基本理念を週1回読み上げ、職員間で適切な言葉かけや対応について確認しあっている。また普段のケアにおいて、管理者からまたはスタッフ間で注意しあうなど、利用者の尊厳やプライバシーへの配慮に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の何気ない会話の中にも自己決定出来る場面を作っている。本人の訴えや思いを何時でも聞き漏らさないように努めている。又、気持ちを自由に表現出来るような環境作りに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人が思い思いに生活出来るように常に心がけている。希望に添えるようにコミュニケーションを図りながら利用者の思いを汲み取っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを理解し本人と相談しながら日常的に身だしなみやおしゃれを支援している。家族の協力を得ることで馴染みの美容院を利用出来るよう支援している。又、本人が気付くような声掛けをする事で自ら訴えられるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に出かけたり食べ物を相談しながら食材を購入し食事の準備や食器拭きなどをスタッフと共に行っている。外食や出前なども個々に好きな物を選び楽しんで頂ける様に努めている。	夕食については利用者の好みを聞きながら献立を考えたり、食材の買い物、調理などへの参加を促し、楽しい食事作りに工夫している。また、希望に応じて外食や出前を楽しみ、普段の食事はスタッフも一緒にテーブルを囲んで会話を楽しむなどの工夫を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士より献立のチェックや指導、助言を仰いでいる。利用者一人一人の食事チェック表を作り食事量、水分量に変化がある時には早期に発見出来るように取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に個々に合った声かけ支援を行い必要に応じて義歯を外し洗浄し義歯洗浄剤で消毒をしている。又必要に応じて歯科受診を行い対応している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握しチェック表に記録すると共にトイレ誘導の声掛けを行い自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけ失禁のないように声掛け誘導している。また、具体的に計画に位置付け排泄のモニタリングで評価を繰り返し、自立支援に向けて取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品を多く取り入れた食事や水分補給に配慮し、散歩や軽体操などを実施して便秘の予防に努めている。必要時には主治医の指示を仰ぎ服薬コントロールも行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望を重視した入浴順や少なくとも週3回の入浴回数を考慮し、季節の行事を取り入れながらゆっくりと気持ちよく入浴出来る様支援している。	入浴は原則週3回。体調や希望に合わせて入浴介助をおこない、入りたがらない方に対しても誘い掛けに工夫したり、清拭などの清潔保護に努めている。またしょうぶ湯やゆず湯など季節行事を取り入れ、気分よく入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を理解したうえで昼食後より横になり休んで頂く様こえ掛けを行っている。空調管理を行い夜間帯の安眠に繋がるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表、情報ファイルを作成し効力から副作用についてはスタッフ全員が情報の共有を行い服薬の変更等がある時はその都度看護師より説明を受け症状の変化があれば看護師へ報告を行っている。尚、薬のセットミスや誤薬がない様、飲み忘れがない様に努める。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などこれまでに日常生活の中で培ってきた得意なことは積極的に行っていただき残存能力が発揮出来る機会を持てるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩に誘い居室に籠ることのない様に日常的に外出を促している。時には家族の協力を頂きながら喫茶店に出かけたりお盆や法要の時は自宅に泊まるなど本人の希望を聞きながら支援している。	日常的な散歩や買い物、季節に応じてつつじや花見、希望に応じてドライブに出かけたりして、自然に触れあうことや気分転換を図るなど、多岐にわたる外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望により自身で小銭程度の管理をしている方おられるが、買い物等で使用する事はできなくなってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に添い電話の引き継ぎや手紙の代筆の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり手作カレンダーで飾り付けするなど利用者にとって居心地の良いスペースになる様努めている。各、居室やリビングに温度計を設置し一日3回計測し一覧表に記録している。常に快適な空間で生活出来る様に支援している。	入口を入るとすぐにリビングとなっていて、ダイニングテーブルやソファの他、畳敷きの場所もある。季節の花や、レク活動で作った作品を掲示し、明るい雰囲気づくりに留意している。居室・リビングは温度計を設置して日に3回計測し、快適温度で過ごせるようにしている。また、利用者が一人でくつろげる場所の確保にも心掛け、一人ひとりが過ごしやすい工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のユニットがあり談笑したり新聞を読んだり、テレビを観たり思い思いにゆったりと過ごせる環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物や使い慣れた物を持参して頂き自宅での生活に近い環境を整え居心地の良い居室を提供している。誕生会の写真や色紙を飾り楽しんでいる。	入所前に使いなれていた布団を使用するなど、自宅での生活空間に近い環境づくりをしている。その他写真や色紙を飾り付け、居心地良く過ごせるような工夫をしている。居室入口には洗面台が設置され、手洗いの励行や冬期間に水を貯めて湿度管理に役立ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」 や「わかること」を活かして、安全かつ できるだけ自立した生活が送れるように 工夫している	日常生活の中で出来ること、出来ない事の見極め を行い出来ることは最大限に活かし出来ないことは 支援し出来るだけ安全で自立した生活に近づける 様努めている。			